

はじめての殉教者

新シリーズ
～福音となったイエス～

2026・3・15

選ばれた食事担当者

- 信徒の増加とそれに伴う問題
 - 男だけで5千人ほどになった
 - 持ち物を共有にし皆で分配していた
 - 「ギリシア語を話すユダヤ人から、ヘブライ語を話すユダヤ人に対して苦情が出た」(使徒6:1)
- 分配(食事)担当者を選ぶ
 - 「“霊”と知恵に満ちた評判の良い人を七人選びなさい。彼らにその仕事を任せよう」(6:3)
 - 「信仰と聖霊に満ちている人 **ステファノ** と、ほかにフィリポ、プロコロ、ニカノル、ティモン、パルメナ、アンティオキア出身の改宗者ニコラオを選んで」

使徒言行録6章8～15節

さて、ステファノは恵みと力に満ち、すばらしい不思議な業とするしを民衆の間で行っていた。ところが、キレネとアレクサンドリアの出身者で、いわゆる「解放された奴隷の会堂」に属する人々、またキリキア州とアジア州出身の人々などのある者たちが立ち上がり、ステファノと議論した。しかし、彼が知恵と“霊”とによって語るので、歯が立たなかった。そこで、彼らは人々を唆して、「わたしたちは、あの男がモーセと神を冒瀆する言葉を吐くのを見た」と言わせた。

また、民衆、長老たち、律法学者たちを扇動して、ステファノを襲って捕らえ、最高法院に引いて行った。そして、偽証人を立てて、次のように訴えさせた。「この男は、この聖なる場所と律法をけなして、一向にやめようとしません。わたしたちは、彼がこう言っているのを聞いています。『あのナザレの人イエスは、この場所を破壊し、モーセが我々に伝えた慣習を変えるだろう。』」最高法院の席に着いていた者は皆、ステファノに注目したが、その顔はさながら天使の顔のように見えた。

ステファノの活躍

- 不思議な業とするしを行っていたステファノ
 - 「さて、ステファノは恵みと力に満ち、すばらしい不思議な業とするしを民衆の間で行っていた。」
 - 食事担当のはずなのに！
- ステファノに議論を吹っかけた人たち
 - 「『解放された奴隷の会堂』に属する人々」
 - ローマ帝国に征服された際に奴隷として連行されたが、後に開放された人たちのグループ
 - 一般のユダヤ人よりも神殿や律法を重んじていた
 - 「しかし、彼が知恵と“霊”とによって語るのに、歯が立たなかった。」

捕らえられたステファノ

- 偽証してステファノを訴える

- 「わたしたちは、あの男がモーセと神を冒瀆する言葉を吐くの聞いた」

- ステファノを襲って捕らえ、最高法院に

- 「民衆、長老たち、律法学者たちを扇動して、ステファノを襲って捕らえ、最高法院に引いて行った」

- 最高法院での偽りの訴え

- 「この男は、この聖なる場所と律法をけなして、一向にやめようとしません。わたしたちは、彼がこう言っているのを聞いています。『あのナザレの人イエスは、この場所を破壊し、モーセが我々に伝えた慣習を変えるだろう。』」

捕らえられたステファノ

- 偽証してステファノを訴える

- 「わたしたちは、あの男がモーセと神を冒瀆する言葉を吐いた」

- ステファノ

- 「民衆、ステファノ

- 神とモーセに逆らっている
- 律法をないがしろにしている
- 神殿を壊そうとしている

ステ
ファノ
は、
「ステ
ファノ
は、
ステ
ファノ
を
殺
した」

- 最高法

- 「この男は、この聖なる場所と律法をけなして、一向にやめようとしません。わたしたちは、彼がこう言っているのを聞いています。『あのナザレの人イエスは、この場所を破壊し、モーセが我々に伝えた慣習を変えるだろう。』」

ステファノの反論(説教)

- 天使のように見えたステファノ
 - 「最高法院の席に着いていた者は皆、ステファノに注目したが、**その顔はさながら天使の顔のように見えた。**」
- 大祭司の質問
 - 「大祭司が、『訴えのとおりか』と尋ねた。」(7:1)
- ステファノの長〜い反論
 - 使徒言行録中最も長く記録されている
 - **7章2〜53節!**
 - ユダヤ人(イスラエル)の歴史を振り返り、彼にかけられた嫌疑を晴らす(というか**糾弾する**)

そこで、ステファノは言った。「兄弟であり父である皆さん、聞いてください。

わたしたちの父アブラハムがメソポタミアにいて、まだハランに住んでいなかったとき、栄光の神が現れ、『あなたの土地と親族を離れ、わたしが示す土地に行け』と言われました。それで、アブラハムはカルデア人の土地を出て、ハランに住みました。神はアブラハムを、彼の父が死んだ後、ハランから今あなたがたの住んでいる土地にお移しになりましたが、そこでは財産を何もお与えになりませんでした、一步の幅の土地さえも。しかし、そのとき、まだ子供のいなかったアブラハムに対して、『いつかその土地を所有地として与え、死後には子孫たちに相続させる』と約束なされたのです。神はこう言われました。『彼の子孫は、外国に移住し、四百年の間、奴隷にされて虐げられる。』更に、神は言われました。『彼らを奴隷にする国民は、わたしが裁く。その後、彼らはその国から脱出し、この場所でわたしを礼拝する。』そして、神はアブラハムと割礼による契約を結ばれました。こうして、アブラハムはイサクをもうけて八日目に割礼を施し、イサクはヤコブを、ヤコブは十二人の族長をもうけて、それぞれ割礼を施したのです。

この族長たちはヨセフをねたんで、エジプトへ売ってしまいました。しかし、神はヨセフを離れず、あらゆる苦難から助け出して、エジプト王ファラオのもとで恵みと知恵をお授けになりました。そしてファラオは、彼をエジプトと王の家全体とをつかさどる大臣に任命したのです。ところが、エジプトとカナンの全土に飢饉が起こり、大きな苦難が襲い、わたしたちの先祖は食糧を手に入れることができなくなりました。ヤコブはエジプトに穀物があると聞いて、まずわたしたちの先祖をそこへ行かせました。二度目のとき、ヨセフは兄弟たちに自分の身の上を明かし、ファラオもヨセフの一族のことを知りました。そこで、ヨセフは人を遣わして、父ヤコブと七十五人の親族一同を呼び寄せました。ヤコブはエジプトに下って行き、やがて彼もわたしたちの先祖も死んで、シケムに移され、かつてアブラハムがシケムでハモルの子らから、幾らかの金で買っておいた墓に葬られました。

神がアブラハムになされた約束の実現する時が近づくにつれ、民は増え、エジプト中に広がりました。それは、ヨセフのことを知らない別の王が、エジプトの支配者となるまでのことでした。この王は、わたしたちの同胞を欺き、先祖を虐待して乳飲み子を捨てさせ、生かしておかないようにしました。このときに、モーセが生まれたのです。神の目に適った美しい子で、三か月の間、父の家で育てられ、その後、捨てられたのをファラオの王女が拾い上げ、自分の子として育てたのです。そして、モーセはエジプト人のあらゆる教育を受け、すばらしい話や行いをする者になりました。四十歳になったとき、モーセは兄弟であるイスラエルの子らを助けようと思い立ちました。それで、彼らの一人が虐待されているのを見て助け、相手のエジプト人を打ち殺し、ひどい目に遭っていた人のあだを討ったのです。モーセは、自分の手を通して神が兄弟たちを救おうとしておられることを、彼らが理解してくれると思いました。しかし、理解してくれませんでした。次の日、モーセはイスラエル人が互いに争っているところに来合わせたので、仲直りをさせようとして言いました。『君たち、兄弟どうしではないか。なぜ、傷つけ合うのだ。』すると、仲間を痛めつけていた男は、モーセを突き飛ばして言いました。『だれが、お前を我々の指導者や裁判官にしたのか。きのうエジプト人を殺したように、わたしを殺そうとするのか。』

モーセはこの言葉を聞いて、逃げ出し、そして、ミディアン地方に身を寄せている間に、二人の男の子をもうけました。四十年たったとき、シナイ山に近い荒れ野において、柴の燃える炎の中で、天使がモーセの前に現れました。モーセは、この光景を見て驚きました。もっとよく見ようとして近づくと、主の声が聞こえました。『わたしは、あなたの先祖の神、アブラハム、イサク、ヤコブの神である』と。モーセは恐れおののいて、それ以上見ようとはしませんでした。そのとき、主はこう仰せになりました。『履物を脱げ。あなたの立っている所は聖なる土地である。わたしは、エジプトにいるわたしの民の不幸を確かに見届け、また、その嘆きを聞いたので、彼らを救うために降って来た。さあ、今あなたをエジプトに遣わそう。』人々が、『だれが、お前を指導者や裁判官にしたのか』と言って拒んだこのモーセを、神は柴の中に現れた天使の手を通して、指導者また解放者としてお遣わしになったのです。この人がエジプトの地でも紅海でも、また四十年の間、荒れ野でも、不思議な業とするしを行って人々を導き出しました。このモーセがまた、イスラエルの子らにこう言いました。『神は、あなたがたの兄弟の中から、わたしのような預言者をあなたがたのために立てられる。』この人が荒れ野の集会において、シナイ山で彼に語りかけた天使とわたしたちの先祖との間に立って、命の言葉を受け、わたしたちに伝えてくれたのです。けれども、先祖たちはこの人に従おうとせず、彼を退け、エジプトをなつかしく思い、アロンに言いました。『わたしたちの先に立って導いてくれる神々を造ってください。エジプトの地から導き出してくれたあのモーセの身の上に、何が起こったのか分からないからです。』彼らが若い雄牛の像を造ったのはそのころで、この偶像にいけにえを献げ、自分たちの手で造ったものをまつて楽しんでいました。そこで神は顔を背け、彼らが天の星を拝むままにしておかれました。それは預言者の書にこう書いてあるとおりです。『イスラエルの家よ、／お前たちは荒れ野にいた四十年の間、／わたしにいけにえと供え物を／献げたことがあったか。お前たちは拝むために造った偶像、／モレクの御輿やお前たちの神ライファンの星を／担ぎ回ったのだ。だから、わたしはお前たちを／バビロンのかなたへ移住させる。』

わたしたちの先祖には、荒れ野に証しの幕屋がありました。これは、見たままの形に造るようにとモーセに言われた方のお命じになったとおりのものでした。この幕屋は、それを受け継いだ先祖たちが、ヨシュアに導かれ、目の前から神が追い払ってくださった異邦人の土地を占領するとき、運び込んだもので、ダビデの時代までそこにありました。ダビデは神の御心に適い、ヤコブの家のために神の住まいが欲しいと願っていましたが、神のために家を建てたのはソロモンでした。けれども、いと高き方は人の手で造ったようなものにはお住みになりません。これは、預言者も言っているとおりのことです。『主は言われる。「天はわたしの王座、／地はわたしの足台。お前たちは、わたしに／どんな家を建ててくれると言うのか。わたしの憩う場所はどこにあるのか。これらはすべて、／わたしの手が造ったものではないか。』

かたくなで、心と耳に割礼を受けていない人たち、あなたがたは、いつも聖霊に逆らっています。あなたがたの先祖が逆らったように、あなたがたもそうしているのです。いったい、あなたがたの先祖が迫害しなかった預言者が、一人でもいたでしょうか。彼らは、正しい方が来られることを預言した人々を殺しました。そして今や、あなたがたがその方を裏切る者、殺す者となった。天使たちを通して律法を受けた者なのに、それを守りませんでした。」

そこで、ステファノは言った。「兄弟であり父である皆さん、聞いてください。」

わたしたちの父アブラハムがメソポタミアにいて、まだハランに住んでいなかったとき、栄光の神が現れ、『あなたの土地と親族を離れ、わたしが示す土地に行け』と言われました。それで、アブラハムはカルデア人の土地を出て、ハランに住みました。神はアブラハムを、彼の父が死んだ後、ハランから今あなたがたの住んでいる土地にお移しになりましたが、そこでは財産を何もお与えになりませんでした、一歩の幅の土地さえも。しかし、そのとき、まだ子孫のいなかったアブラハムに対して、『いつかその土地を所有地として与え、死後には子孫がらに相続させる』と約束されたのです。神はこう言われました。『彼らの子孫は、外国に移住し、四百年の間、奴隷にされて虐げられる。』更に、神は言われました。『彼らを奴隷にする国民は、わたしが裁く。その後、彼らはその国から脱出し、この場所でわたしを礼拝する。』そして、神はアブラハムと割礼による契約を結ばれました。こうして、アブラハムはイサクをもうけて八日目に割礼を施し、イサクはヤコブを、ヤコブは十二人の族長をもうけて、それぞれ割礼を施したのです。

アブラハム・イサク・ヤコブ

この族長たちはヨセフをねたんで、エジプトへ売ってしまいました。しかし、神はヨセフを離れず、あらゆる苦難から助け出して、エジプト王ファラオのもとで恵みと知恵をお授けになりました。そしてファラオは、彼をエジプトと王の家全体とをつかさどる大臣に任命したのです。ところが、エジプトとカナンの全土に飢饉が起こり、大きな苦難が襲い、わたしたちの先祖は食糧を手に入れたことができなくなりました。ヤコブはエジプトに穀物があると聞いて、まずわたしたちの先祖をエジプトへ行かれました。二度目のとき、ヨセフは兄弟たちに自分の身の上を明かし、ファラオもヨセフの一族のことを知りました。そこで、ヨセフは人を遣わして、父ヤコブと七十五人の親族一同を呼び寄せました。ヤコブはエジプトに下って行き、やがて彼もわたしたちの先祖も死んで、シケムに移され、かつてアブラハムがシケムでハモルの子らから、幾らかの金で買っておいた墓に葬られました。

ヨセフ

神がアブラハムになさった約束の実現する時が近づくとつれ、民は増え、エジプト中に広がりました。それは、ヨセフのことを知らない別の王が、エジプトの支配者となるまでのことでした。この王は、わたしたちの同胞を欺き、先祖を虐待して乳飲み子を捨てさせ、生かしておかないようにしました。このときに、モーセが生まれたのです。神の目に適った美しい子で、三か月の間、父の家で育てられ、その後、捨てられたのをファラオの王女が拾い上げ、自分の子として育てたのです。そして、モーセはエジプト人のあらゆる教育を受け、すばらしい話や行いをする者になりました。四十歳になったとき、モーセは兄弟であるイスラエルの子らを助けようと思い立ちました。それを見たエジプト人が虐げられているのを見て助け、相手のエジプト人を打ち殺し、ひどい目に遭っていた人のあつを討ったのです。モーセは、自分の手を通して神が兄弟たちを救おうとしておられることを、彼らが理解してくれたいと思いました。しかし、理解してくれませんでした。次の日、モーセはイスラエル人が互いに争っているところに来合わせたので、仲直りをさせようとして言いました。『君たち、兄弟どうしではないか。なぜ、傷つけ合うのだ。』すると、仲間を痛めつけていた男は、モーセを突き飛ばして言いました。『だが、お前を我々の指導者や裁判官にしたのか。きのうエジプト人を殺したように、わたしを殺そうとするのか。』

モーセ

モーセはこの言葉を聞いて、逃げ出し、そして、ミディアン地方に身を寄せている間に、二人の男の子をもうけました。四十年たったとき、シナイ山に近い荒れ野において、柴の燃える炎の中で、天使がモーセの前に現れました。モーセは、この光景を見て驚きました。もっとよく見ようとして近づくと、主の声が聞こえました。『わたしは、あなたの先祖の神、アブラハム、イサク、ヤコブの神である』と。モーセは恐れおののいて、それ以上見ようとはしませんでした。そのとき、主はこう仰せになりました。『履物を脱げ。あなたの立っている所は聖なる土地である。わたしは、エジプトにいるわたしの民の不幸を確かに見届け、また、その嘆きを聞いたので、彼らを救うために降って来た。さあ、今あなたをエジプトに遣わそう。』人々が、『だれが、お前を指導者や裁判官にしたのか』と言って拒んだこのモーセを、神は柴の中に現れた天使の手を通して、指導者また解放者としてお遣わしになったのです。この人がエジプトの地でも紅海でも、また四十年の間、荒れ野でも、不思議な業とするしを行って人々を導き出しました。このモーセがまた、イスラエルにこう言いました。『神は、あなたがたの兄弟の中から、わたしのような預言者をあなたがたのために立てられる。』この人が荒れ野の集会において、シナイ山で彼に語りかけた天使とわたしたちの先祖との間に立ち、命の言葉を受け、わたしたちに伝えてくれたのです。けれども、先祖たちはこの人に従おうとせず、彼を退け、エジプトをなつかしく思い、アロンに言いました。『わたしたちの先に立って導いてくれる神々を造ってください。エジプトの地から導き出してくれたあのモーセの身の上に、何が起こったのか分からないからです。』彼らが若い雄牛の像を造ったのはそのころで、この偶像にいけにえを献げ、自分たちの手で造ったものをまつて楽しんでいました。そこで神は顔を背け、彼らが天の星を拝むままにしておかれしました。それは預言者の書にこう書いてあるとおりです。『イスラエルの家よ、／お前たちは荒れ野にいた四十年の間、／わたしにいけにえと供え物を／献げたことがあったか。お前たちは拝むために造った偶像、／モレクの御輿やお前たちの神ライファンの星を／担ぎ回ったのだ。だから、わたしはお前たちを／バビロンのかなたへ移住させる。』

モーセ

わたしたちの先祖には、荒れ野に証しの幕屋がありました。これは、見たままの形に造るようとモーセに言われた方のお命じになったとおりのものでした。この幕屋は、それを受け継いだ先祖たちが、ヨシュアに導かれ、目の前から神が追い払ってくださった異邦人の土地を占領するとき、運び込んだもので、ダビデの時代までそこにありました。ダビデは神の御心に導かれ、ソロブの家を建てたいが欲しいと願っていましたが、神のために家を建てたのはソロブでも、いと高き神は、ダビデが造ったようなものにはお住みになりません。これは、預言者も言っていることです。『主は言われた。わたしはわたしの王座、／地はわたしの足台。お前たちは、わたしに／どんな家を建ててくれると言うのか。わたしの憩う場所はどこにあるのか。これらはすべて、／わたしの手が造ったものではないか。』

幕屋・神殿

かたくなで、心と耳に割礼を受けていない人たち、あなたがたは、いつも聖霊に逆らっています。あなたがたの先祖が逆らったように、あなたがたもそうしているのです。いや、あなたがたの先祖が迫害しなかった預言者が、一人でもいたでしょうか。彼らは、正しさが来れば、それを預言した人々を殺しました。そして今や、あなたがたがその方を裏切る者、殺す者となり、天使たちを通して律法を受けた者なのに、それを守りませんでした。」

糾弾

アブラハム・イサク・ヤコブ

- アブラハムに与えられたカナン之地

- イスラエルの父祖アブラハムは主の言葉に従って故郷を離れ主が示された地に住んだ

- 外国移住と脱出の約束

- 『彼の子孫は、外国に移住し、四百年の間、奴隷にされて虐げられる。…その後、彼らはその国から脱出し、この場所でわたしを礼拝する。』(7:6~7)

- 「割礼」による契約

- アブラハム・イサク・ヤコブ・12人の族長
- 「割礼」は主への従順の証し

ヨセフによるヤコブ一族の救い

- 主はヨセフを選んでエジプトに遣わされた
 - 「この族長たちはヨセフをねたんで、エジプトへ売ってしまいました。しかし、神はヨセフを離れず、あらゆる苦難から助け出して…」
 - 妬みから売られたが主が共におられ復活されたイエスのことを暗示している
- ヤコブ一族はエジプトに下り、救われる
 - カナンの地を飢饉が襲い、穀物があると聞いたエジプトに下る
 - そこでヨセフと再会し、一族は命拾いする
 - 一人の人の苦難を通して一族が救われる

モーセの働き（説教の中心）

• エジプトにおける困難

- ヤコブの子孫はエジプトで増え広がったが、ヨセフのことを知らない王によって虐げられた
- アブラハムへの預言の成就

• 選ばれた一人の人、モーセ

- 殺されかけたが命拾いする
- エジプトで最高の教育を受け、「すばらしい話や行いをする者になりました」<イエスとの共通点

• 自力で民を救おうとするが誤解される

- 『だれが、お前を我々の指導者や裁判官にしたのか。きのうエジプト人を殺したように、わたしを殺そうとするのか。』<誤解

モーセの働き（説教の中心）

• エジプトの遣わされたモーセ

- シナイ山の「柴の燃える炎」の中から主が語られる
- 「彼らを救うために降って来た。さあ、今あなたをエジプトに遣わそう。」<救いのために遣わされる

• エジプトからカナンへの地へ

- 「この人がエジプトの地でも紅海でも、また四十年の間、荒れ野でも、不思議な業とするしを行って人々を導き出しました。」

• モーセによるメシア預言（申命記18:15）

- 『神は、あなたがたの兄弟の中から、わたしのよう
な預言者をあなたがたのために立てられる。』

モーセの働き（説教の中心）

• 命の言葉を伝える働き

• 「この人が荒れ野の集会において、…**命の言葉を**
受け、わたしたちに伝えてくれたのです。」

• イエスは生ける「**命の言葉**」としてこの世に来られた

• 主に背き続けたイスラエル

• 若い雄牛の像を造り、まつって楽しんだ

• これはカナンの地入国後も続いた大罪で、やがてバビロン捕囚に至った（アモス5:25～27）

• 私たちの先祖は「命の言葉」に背き続けている

「証しの幕屋」

- 主がモーセに命じて造らせた
 - 「わたしたちの先祖には、荒れ野に証しの幕屋がありました。」
- 幕屋が礼拝の中心だった
 - カナンの地に入ってからダビデの時代までは幕屋で礼拝していた
- ソロモンが神殿を建てたが…
 - 「けれども、いと高き方は人の手で造ったようなものにはお住みになりません。」
 - 神殿が礼拝対象になっているユダヤ人への非難

最後の一撃

- 主に逆らい続けて今もそうしている！
 - 「心と耳に割礼を受けていない人たち」：かたくなで主の言葉に従わないという意味
 - 「あなたがたの先祖が逆らったように、あなたがたもそうしている」
- 預言者たちを迫害しメシアを殺した！
 - 「いったい、あなたがたの先祖が迫害しなかった預言者が、一人でもいたでしょうか」
 - 「そして今や、あなたがたがその方を裏切る者、殺す者となった。」
- 律法を破っているのはあなたたちだ！
 - 「天使たちを通して律法を受けた者なのに、それを守りませんでした。」

ステファノの説教のポイント

- 苦難を通して主の救いを成し遂げる器
 - ヨセフ
 - モーセ
 - **イエス**
- 「命の言葉（律法）」に対する不従順
 - 荒れ野 > カナンの地 > **イエス**
- 主は民と共におられるのであって、神殿にいるのではない
 - 幕屋 > 神殿 > **イエス**

イエスこそがイスラエルの歴史の完成者である

最初の殉教者

人々はこれを聞いて激しく怒り、ステファノに向かって歯ぎしりした。ステファノは聖霊に満たされ、天を見つめ、神の栄光と神の右に立っておられるイエスとを見て、「天が開いて、人の子が神の右に立っておられるのが見える」と言った。人々は大声で叫びながら耳を手でふさぎ、ステファノ目がけて一斉に襲いかかり、都の外に引きずり出して石を投げ始めた。証人たちは、自分の着ている物をサウロという若者の足もとに置いた。人々が石を投げつけている間、ステファノは主に呼びかけて、「主イエスよ、わたしの霊をお受けください」と言った。それから、ひざまずいて、「**主よ、この罪を彼らに負わせないでください**」と大声で叫んだ。ステファノはこう言って、眠りについた。